

「布施」

岡山県 長川寺住職 吉川龍眞

皆さんは「布施」と聞いて、何を連想しますか？多くの方は、寺院や僧侶に対して供養等の際に金銭を渡す事を想像されるのではないのでしょうか。本来「布施」という言葉の意味は、「気持ちよく、相手に施しをする」という意味です。つまり他者を思い、他者の為に何か行動を起こす事が「布施」なのです。

仏教ではこの「布施」という考え方を、細かく定めています。金銭や物品など、物理的財産を分け与える布施・「財施」や、仏の教えを分け与えた人を安楽にする布施・「法施」は、代表的な「布施」です。

その他に、顔を施すと書く「顔施」、これは笑顔を相手に施すという「布施」です。顔の表情というのは不思議なもので、おうおうにして、その表情は相手に伝わります。つまり、相手が楽しそうな表情を向けてくればこちらも笑顔になりますし、逆に相手が、怒りの表情を向けてくれば、こちらも穏やかではいられません。ですから、相手の事を想って笑顔で接する事も立派な「布施」なのです。

ところで私は、「一日に一度は、他者を想つての布施」を心がけています。道にゴミが落ちていれば、他者の為にゴミを拾います。電車の席を必要としている人がいれば、席を譲ります。大切な事は他者を想う事、そして他者のために、何かしらの行動を起こす事が「布施」なのです。

そしてこの他者を想う事は、回り回って自分に帰ってきます。他者を想う事が出来るという事は、自分を想う事が出来るという事です。かえりみれば、私達は些細な事から大きな事まで、どれほど家族や友人、名前も知らない人達に、助けられていることでしょうか。それは、他者があなたを想って施してくれた「布施」なのです。